

2人目の入院見舞給付

品川支部のFさんは、腕、首、背中などに原因不明の激痛を発生、6日間の入院となりました。退院後、Fさんは支部へ問い合わせを



して申請手続きを教わり、さっそくCU東京の共済担当へ書類を提出しました。認定委員会で書類確認の結果、共済金3万の給付が決まりました。2月早々に送金がおこなわれました。

500人のCU東京を

1月28日、第5回CU東京執行委員会が開かれました。6月、結成1周年を迎えるCU東京を早期に20支部、500人の組織にさせたいと確認しました。

組合加入対象者

執行委員会の論議では、組合加入対象者にも触れました。労働相談活動による加入とともに、組合加入対象者を職場に働く、非正規労働者や小売店などに働く従業員や家族従業員、この他組合員の家族など、加入対象候補をあげて取り組むことについて話し合われました。

江東は50人超

すでに、江東、練馬、品川、北の地域で支部が結成され、組合員の要求実現を中心に活動が展開されています。このなかで江東の「CUこうとう」は、毎月、組合員拡大を積み上げ2月現在、50人を超す支部となっています。週平均1件の割合で労働相談が持ち込まれていて、支部書記長の川村さん、副執行委員長の中村さんなどが相談を受けています。

相談に来られる労働者は、自分の置かれている現状を訴え、相談者と一緒になって問題解決への方向を探します。そうしたなかで川村さん達の労働組合の説明を受け、組合加入を同意しています。その確立はかなり高いものとなっています。

2/25 拡大推進決起集会

「貧困と格差」の解決を

自公政権で進められた構造改革路線は「貧困と格差」を拡大させました。1995年経団連方針「新時代の日本的経営(21世紀戦略)」と米財界圧力による「労働政策の規制緩和」を政府が取り入れていきました。具体的には「派遣労働の自由化」が行なわれています。結果、生み出されたのは低賃金、不安定雇用労働者の増大でした。

08年秋の世界的金融危機は日本経済にも打撃を与え、大企業は資本の利潤追求へ走り、今日の「貧困と格差」を深刻にさせています。

労働運動は雇用の保障、失業者への支援、最賃大幅引き上げ、労働者派遣法改正、「働くルールの確立」、社会保障の再建を目指し奮闘しています。

拡大推進決起集会へ参加しよう

コミュニティユニオン東京は、こうした労働運動の一角を担う立場からも、非正規労働者、未組織労働者の労働組合への参加を促し、「地域」と「共済」の機能を発揮し、大企業の社会的責任をはじめ「大企業に対する社会的規制」、労働者・国民のための「制度・政策要求」の運動が広がっていくよう努力していきます。

CU東京は別記の拡大推進決起集会を開催します。地域からのご参加を呼びかけます。

日時 2月25日(木) 18時30分～

会場 東京労働会館7階 ラパスホール

2部は拡大ガンパロー懇親会となります。